

第38号

# いしかわ 成人病予防センター だより

【新春号】

いしかわ成人病予防センターだより

第38号〔2016年新春号〕

発行日 平成28年(2016年)1月発行  
金沢市鞍月東2丁目6番地  
電話(076)237-6262  
FAX(076)238-9207  
郵便番号 920-8201  
郵便振替番号 00750-7-16352  
E-mail smile@kenshin-ishikawa.or.jp  
URL http://www.kenshin-ishikawa.or.jp/



明けまして  
おめでとうございます。  
本年も石川県成人病予防センターをよろしく願っています。

謹賀新年  
2016



輪島市白米の千枚田です。

10月中旬から翌年3月中旬まで“あぜのきらめき”と銘打って、21,000個のLEDを使ったライトアップが行われています。写真を撮ったのは11月初めで快晴だったのですが、海辺なので暗くなってからの冷え込みが厳しかったです。うっすらと雪が積もるとさらに美しいのですが、防寒対策は欠かせません。

いあごめし

公益財団法人 石川県成人病予防センター  
理事長 素谷 宏

あけましておめでとうございます。

センターの合言葉「正確な検診、迅速な結果通知」を肝に銘じて今年も気を引き締めて検診(健診)に取り組んでまいります。

がん検診の方法は時代とともに少しずつ変わりがつあります。胃がん検診では、リスク検診の導入が検討され始めました。将来は対象年齢が現行の40歳以上から50歳以上に引き上げられるようです。検診間隔も毎年から隔年検診に移行するように国の指針が変更されました。40歳代の胃がんが少なくなったことから40歳代を対象年齢から外すのはうなずけます。しかし検診間隔については、逐年検診の発見がんが相当数に上ることや、リスク検診あとの管理検診のためにも逐年検診は残すべきと考えます。

乳がん検診では、視触診廃止を指向する市町が増え、代わりに超音波検診の導入が検討され始めるでしょう。

これらの新しい検診方法を取り入れるためには人と機材が必要となりますが、当センターとしては後れを取らないように準備してまいりたいと思います。

# これからの胃がん検診

公益財団法人石川県成人病予防センター

理事長 素谷 宏

## はじめに

近年対策型（住民）胃がん検診は大きく変わろうとしております。従来の検診に加えて新しく胃がんリスク検診を取り入れようという考えが広がっています。

## リスク検診とは

将来胃がんになるリスク（危険度）の高い胃と、ほとんど胃がんにならない健康な胃の違いがわかってきました。それを見分けるには二つの方法があります。

### 一、ABC検査（血液検査）

二、従来の胃レントゲン検査の画像から萎縮度を判定する

それぞれの方法には一長一短がありますが、このように検診の流れが変わってきたのは理由があります。それはほとんどの胃がんは（まれに例外はありますが）ヘリコバクタピロリ菌感染によって引き起こされる「萎縮性胃炎」の胃から発生してくることがわかってきたからです。

## ヘリコバクタピロリ菌とは

この菌は衛生環境が悪い、まだ免疫機能が十分発達していない3〜5歳の子供のころに口から胃に入ります。ふつうは胃の中は強い酸性胃液がありますので細菌は生息できないのですが、この菌は胃液の酸性を中和する仕組みを持っているため自分が生息するのに都合の良い環境を作ることができます。そしてひとたび胃の中にはいりこんだら30〜40年もの長い間胃に棲みつきます。その間常に白血球の

攻撃を受けそのとばっちりで胃粘膜は荒廃してしまいます。

## 萎縮性胃炎とは

ヘリコバクタピロリ菌を攻撃する白血球は菌のみならず胃粘膜でも最も重要な働きをしている胃粘膜を破壊し胃粘膜が薄くなります。破壊された胃粘膜は再生されませんが、度重なると元通りの細胞で修復できなくなり、代わりに小腸や大腸に似た細胞で修復してしまいます。これは腸上皮化生と言われます。これは萎縮性胃炎の末路で胃炎もここまで来るとピロリ菌も住めなくなり菌は姿を消しますが、胃は元には戻りません。

このような胃は最もがん発生の危険度が高いのです。

## ABC検査とは

がんを見つける検査ではなく、胃がんになる危険度を見分ける検査です。

血中のヘリコバクタピロリ菌に対する抗体価と血中ペプシノゲン検査からピロリ菌の感染の有無と、萎縮性胃炎の程度を組み合わせて胃粘膜の状態をABC Dに分類します。A群は危険度0、B↓C↓Dと進むに従ってがん発生の危険度が高まります。

## ABC検査が住民検診に用いるには いまだ時期尚早といわれる訳は

一、A群の中には今のカットオフ値（10 U/ml）では偽A群が混入してきます

（混入を防ぐためのカットオフ値の見直しを検討中）

二、B群をさらに二群に分ける必要があります。

（ペプシノゲンⅡ値の高い例に未分化がんのリスクが高いものが混入している）

三、要精検になった人の内視鏡検査受診率が非常に低い。

（がん検診ではなくリスク検査であるため受診者の受けるインパクトが弱い）

四、受診した人を何年にもわたって管理検診を維持しなければ意味がないが人手が足りません

五、胃X線検診に比べて要精検者の割合が高すぎます  
などが挙げられています。

## そこでレントゲン画像からの 萎縮性胃炎の拾い上げ

胃レントゲン画像から直接的な異常所見の有無と背景粘膜の萎縮度の有無という二つの視点で判定することになりますので、読影医は2倍の労力が必要となり大変ですが、受診者の方々にとっては今までと変わらず1回のバリウムによるレントゲン検査で済みますので新たな負担はありません。

## 今まで発見された 胃がん画像の背景粘膜

平成23年から25年までの3年間にセンターが行った集団検診で発見された胃がん135例について背景粘膜を調べたところ

「萎縮なし」の胃から発生した胃がんはゼロでした。  
 「中等度萎縮」の胃からは 55例  
 「高度萎縮」の胃からは 80例 合計135例でした。  
 (図1)

## 胃画像の背景粘膜の 典型例を示します

- 「萎縮なし」の胃画像 (写真a)
- 「中等度萎縮」の胃画像 (写真b)
- 「高度萎縮」の胃画像 (写真c)
- 「除菌歴あり」の胃画像 (写真d)

## 胃粘膜の萎縮の程度と今後の指導

「萎縮なし」の人 胃がんになる危険度はほとんどないので今後の検診間隔は3～5年とする(この検診間隔については現在読影委員会で検討中)  
 「中等度萎縮」の人 今後は毎年検診を受ける  
 「高度萎縮」の人 今後は毎年検診を受ける  
 「除菌歴あり」の人 除菌に成功しても胃がんになる危険度は必ずしもゼロにはならないので毎年受診をすすめる  
 「判定保留」の人 次年度の検診を勧める

## 石川県成人病予防センターの提案

今後の市町の対策型検診は今まで通りのX線検査を行います。次の胃がんリスク検診を組み込むことを選択肢に加えます。

(A) 胃の背景粘膜の萎縮度を胃X線検査で評価し今後の検診間隔の指導に役立てる。  
 今までの胃X画像の読影は胃がんがあるかもしれない部位と異常所見を指摘してきましたが、今後は胃粘膜の萎縮度と読影可能な場合ヘリコバクターピロリ菌感染情報を受診者に提供します

(B) 血液によるABC検査の導入  
 40～50歳代の方々に対しては、除菌指導のために有用でありましょう。  
 一方60歳以上の高齢者は、除菌しても胃がんリスク減少効果にあまり寄与しないといわれています。  
 当センターとしては要望があればABC検査を受託するために機器の整備を行っております。



写真 a : 萎縮なし

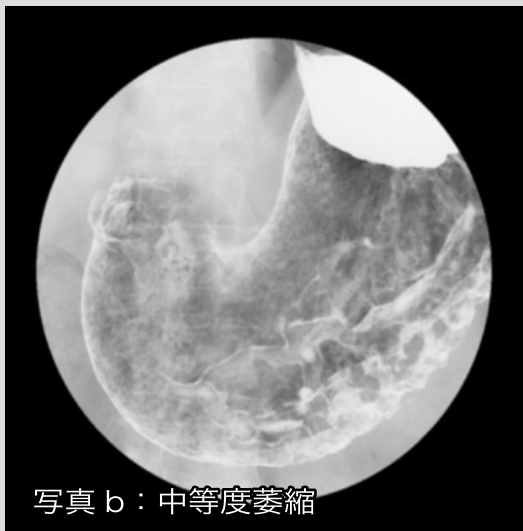


写真 b : 中等度萎縮

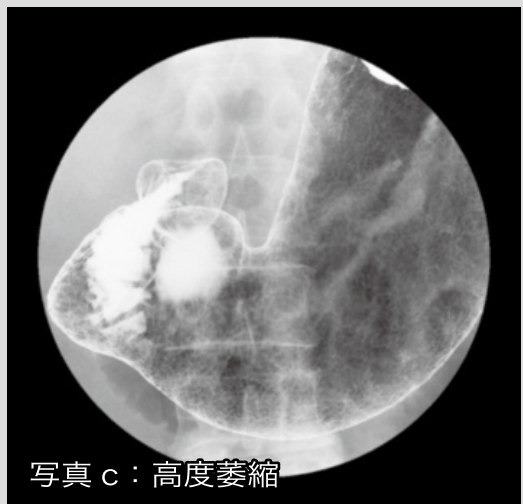


写真 c : 高度萎縮

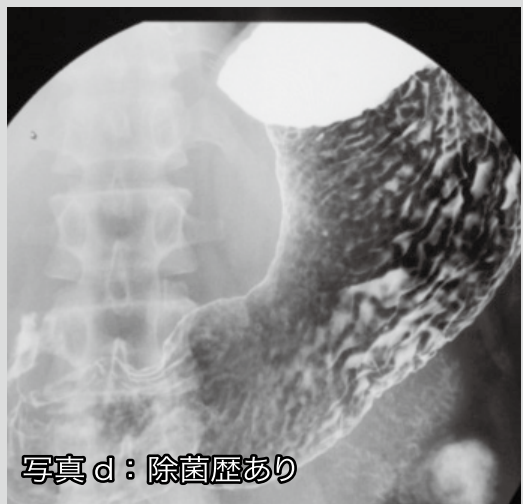


写真 d : 除菌歴あり

## H23、H24、H25 センター発見胃がんの 背景胃粘膜 (萎縮性胃炎や H.P 感染の有無)

	萎縮なし	中等度萎縮	高度萎縮	合計
早期がん	0	43	58	101
進行がん	0	12	22	34
合計	0	55	80	135

「萎縮なし」のいわゆる健康な胃粘膜からはがんはほとんど発生しないといつてよい。  
 (A群と考えてもよい)



## 乳がん検診 (マンモグラフィ)

図1

## マンモグラフィ検査とは

- 乳房のエックス線撮影
- 専用の装置を使って乳房を板で挟んで撮影
- 撮影枚数は左右各2枚、合計4枚
- 検診時間は約6分

図2

石川県成人病予防センターでは、教育普及活動として各種講演などを行っています。  
 ここでは2015年7月に、志賀町の検診担当者を対象として行った「子宮がん検診の基礎知識」・「乳がんの現状・マンモグラフィ検査とは」の講演内容の一部をご紹介します。

### はじめに

(図1) 今回は特にマンモグラフィについて紹介します。

### マンモグラフィ検査とは

マンモグラフィ検査とは一体どのようなものなのでしょうか。

もうご存じの方も多いと思いますが、マンモグラフィとは、乳房専用のX線撮影のことです。みなさん胸部のレントゲン写真は撮ったことがあると思いますが、板に胸をつけて撮影する胸部の撮影とは違い、マンモグラフィでは専用の装置を使い、乳房を左右別々に板で挟んで撮影します。撮影は乳房を斜め方向と、上下方向から挟み左右1枚ずつ撮影し、合計4枚の写真を撮ります。検査時間は4枚撮影して、だいたい6分くらいです。検査時間は6分ですが、実際に乳房を挟んでいるのは10秒くらいなので安心して下さい。(図2)

## 乳房専用エックス線装置



図3

## どうして乳房を圧迫するの?

- 厚さを薄くするため  
→ 被ばくが少なくなります
- 乳房を固定するため  
→ ボケがない写真が撮れます
- 乳腺の重なりを広げるため  
→ 病気を見つけやすくなります

図4

### 乳房専用 X線装置

これがマンモグラフィの装置です。左側の写真が斜めから挟む場合で、右側の写真が上下に挟む場合です。(図3)

### どうして 乳房を圧迫するの?

では、どうして乳房を圧迫するのでしょうか。  
 乳房を圧迫すると、乳房の厚さが薄くなります。薄くなると、放射線による被ばくが少なくなります。1cm乳房を薄くするとX線の量はだいたい半分くらいになります。

また、乳房を圧迫すると、乳房が固定されます。乳房が固定されると写真がぼけずにきれいな写真になります。そして乳房を圧迫すると、乳腺の重なりが広がります。立体的に重なっていた乳腺がばらけて広がり、その中の病変を見つけやすくなります。(図4)



## 検査の様子



図 5

## 検査の様子

では、実際の検査の様子を見てみましょう。これは斜めからの撮影です。

まず、黒い板の上に乳房を載せていきます。この黒い部分にフィルムが入っているので、脇からお腹までしっかり載せていきます。脇もがっちりつかんで載せていくので、力を抜いて、撮影技師に身をゆだねてください。黒い板にしっかりと載ったら、乳房を広げながら透明の板で徐々に圧迫していきます。

これで撮影します。

肩の力が入ると写らない部分が出てしまったり、余計に痛みを感じることがあるので、検査中は肩の力を抜いてリラックスすることが上手に検診を受けるコツになります。(図5)

## 実際の写真

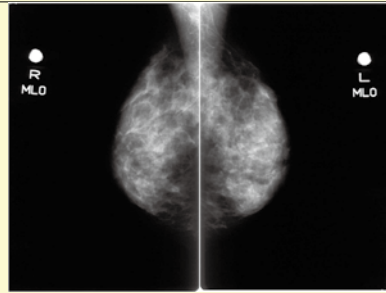


図 6

## 実際の写真

こうして撮影すると、このような写真に写ります。右の乳房と左の乳房です。写真は左右対称に写ります。脇の胸筋からお腹までしっかりと写っています。白く写っているのが乳腺で、黒く写っているのが脂肪です。この写真を専門の医師が腫瘍がないか、乳腺の乱れがないかなどをチェックします。

またマンモグラフィの特徴として、石灰化といって、がんがしこりになる前段階の初期の病変を見つけることもできます。(図6)



## 発見方法と腫瘍の大きさ

発見方法 大きさ (cm)	自己発見	検診 (自覚症状 あり)	検診 (自覚症状 なし)	その他	不明	合計
0~1.0	11.7	21.3	38.2	30.3	15.3	21.5
1.1~2.0	35.3	35.9	33.5	31.5	35.3	34.4
2.1~5.0	41.5	31.9	14.6	23.5	21.3	31.5
5.1~7.0	7	3.7	1.2	3.7	3.3	4.8
不明	4.6	7.1	12.6	11.1	24.7	7.7
合計	100	100	100	100	100	100

資料 平成23年全国乳がん患者登録調査

図 7

## 発見方法と腫瘍の大きさ

次に、乳がんになった方の発見方法とその時の腫瘍の大きさを見てみましょう。

腫瘍の大きさ2cm以下でリンパ節や他の部位に転移がないものが早期がんです。検診で発見されたものは半分以上が早期がんでした。

また、自己発見と検診でも自覚症状のあったものをもっても早期でたくさん見つかっています。しかし、自覚症状がなく検診で発見されたものは前の2つの発見方法に比べ1cm以下のより小さいがんの割合が多く、2cm以上の進行がんの割合がとても少ないです。

乳がんを早期に発見するには自己検診はもちろん、自覚症状のないうちに検診を受けることが大切です。(図7)

## 乳がん検診受診率年度別推移

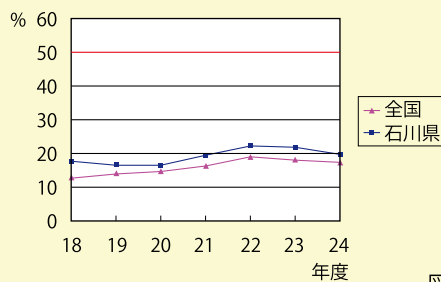


図 8

## 乳がん検診受診率年度別推移

これは、乳がん検診の受診率を年度別の推移で表したものです。石川県は全国の平均に比べると少し高いです。しかし、国の目標は受診率50%で、まだまだ目標にはほど遠いのが現状です。

受診率が50%を越えると死亡率が下がるといわれています。最初に述べたように、現在乳がんの死亡率は増えています。

乳がんの死亡率を減らすためにもまず乳がん検診を受けましょう。(図8)

石川県で行われている

# 肺がんCT検診の研究

公益財団法人石川県成人病予防センター

消化器呼吸器検診課

課長 水上

悟

## (RCT..無作為比較試験) について

### 科学的根拠に基づくがん検診

現在行われているがん検診は、平成16年に公表された「有効性評価に基づくがん検診ガイドライン」で推奨されている検査を行っています。

肺がん検診においては、従来から行われてきた「胸部X線撮影」と、高喫煙者に対する「喀痰細胞診」を行うことで、死亡率の減少が認められるという研究報告が複数あり、このことを根拠に集団検診が行われています。

これに対して、肺がんのCT検診は、人間ドック（任意検診）を中心に行われてきましたが、CT検診が始まって間もないこと

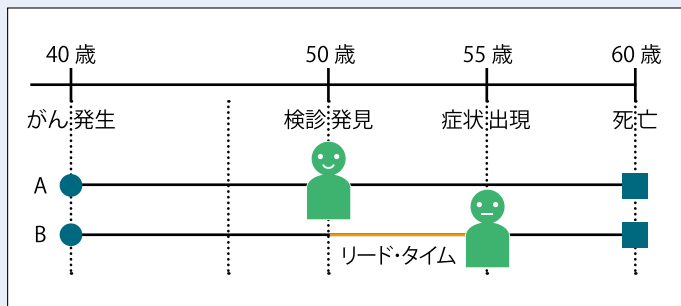
もあり、死亡率が減少したという研究報告が少ないため、現在集団検診（対策型検診）には取り入れられていません。

CT検診では、従来から行われてきた胸部X線撮影より、多くのがんを見つけることができますが、これを集団検診（対策型検診）に取り入れるためには、十分な死亡率減少効果があるということを証明しなければなりません。

### たくさんのがんが見つかるCT検診

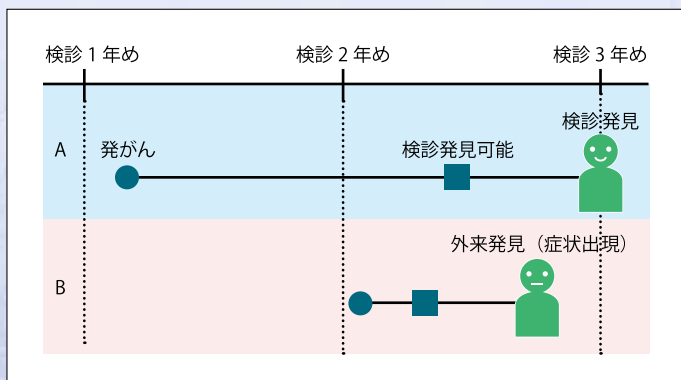
CT検診では、胸部X線検診より多くのがんが、より小さいうちに見つかります。

しかし、とても小さな所見の場合、確定診断が難しい場合



リードタイム・バイアス：検診で発見したものが、発見後、より長生きしたように見えるが、実際の寿命は変わらない。

出典：国立がん研究センターがん情報センター



レングス・バイアス：進行の速いがんは自覚症状で発見されやすい。

出典：国立がん研究センターがん情報センター

バイアス（偏り）：ここにあげた2つのバイアスは、生存率や生存期間による研究（コホート試験・症例対照研究）に影響を与えます。

他にも、セルフセクション・バイアスやオーバーダイアグノーシス・バイアス（過剰診断バイアス）などのバイアスがありますが、RCTではリードタイム・バイアス、レングス・バイアス、セルフセクション・バイアスの影響を受けません。

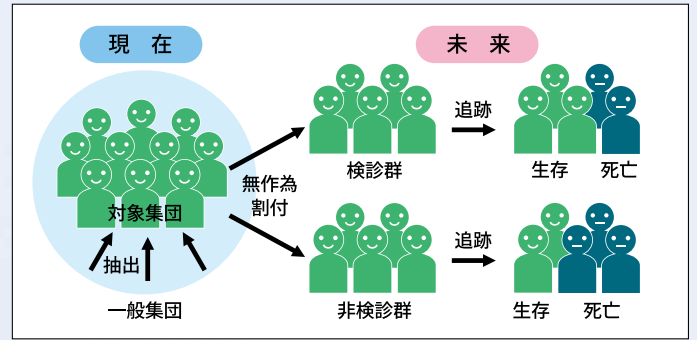
### 効果を証明する方法

検診の効果を評価するための方法にはRCT（無作為化比較試験）、コホート試験、症例対照試験などの方法があります。

これらの中で、一番精度の高い方法がRCTです。今後肺がん検診にCTを取り入れていくためには、CT検診を行うことで、肺がんが亡くなる方が減少するということをRCTによって証明しなければなりません。

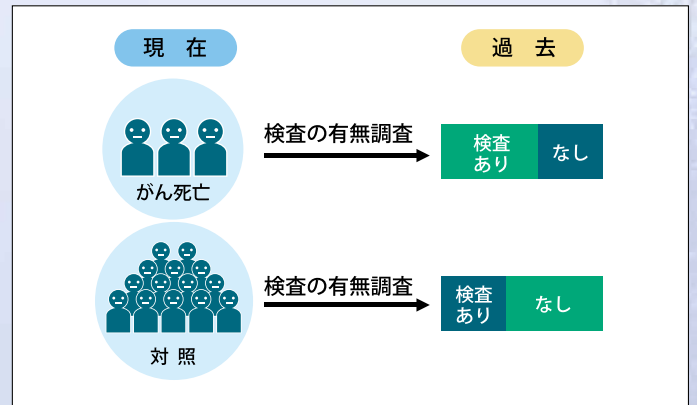
### 世界で行われているRCTによる肺がんCT検診の研究

実は、低線量肺がんCT検診についての研究は、アメリカやヨーロッパですで行われています。アメリカでは大規模な研究が行われ、十分な効果があるという結果が出ています。ヨーロッパではいくつかのグループが研究を行っていて、今後結果が明らかになっていきます。



RCT: 対象になる集団を、性別・年齢などが均等になるように振り分けて、片方にだけ検診などの介入をします。  
今回の研究では、CT 検診を行うグループと通常のX線検診を受けるグループに振り分けします。

出典：国立がん研究センターがん情報センター



症例対照研究：ある部位のがんで死亡した人が、過去に受けた検診の状況を調べ、検診の効果を調べます。

出典：国立がん研究センターがん情報センター

検診をよく受ける人は健康意識が高く、あまり検診を受けない人に比べて生活習慣にも気を配っている人が多いため、がんにかかりにくかったり、予後が良くなる傾向があります。(セルフセレクション・バイアス)

## 日本におけるRCTによる肺がんCT検診の研究

日本では、金沢医科大学呼吸器外科の佐川教授が中心になって、平成22年度よりRCTによる研究が開始されています。

このような研究で、信頼性の高い結果を得るには、たくさんの人たちに参加してもらわなければなりません。アメリカの研究では53,000人を超える人たちが参加しています。

日本の研究でも精度を高めるためには、少なくとも20,000人、できれば30,000人以上の研究参加者が必要だとされていますが、予算の関係もあり、現在参加しているのは石川県を含む7県で1,500人程度です。

### RCTに参加できる条件

このような研究には参加者の条件が決まられていて、希望者が全て参加できるわけではありません。

この研究は市町村単位で行われていて、

1. 研究開始時の年齢が50歳～64歳
2. タバコを吸ったことがないか、あまり吸ったことがない

(喫煙指数600未満)

に該当する方を対象としています。

また、以前に検診としてCT検査を行ったことがある人や、がんなど一部の病気で治療中の人は参加できない場合があります。

この研究では10年間の追跡調査を行います。参加された方には翌年以降は通常の検診を毎年受診して頂きたいのですが、CT群になった方は、研究開始から6年目に再度CT検診を受けて頂きます。

### 今後のRCT

研究にはたくさんさんの費用がかかりますが、医療研究のために効率的に補助を行うAMED（日本医療開発機構）という組織が2013年に設立されており、CT検診RCTにもこれまでより多くの予算が付くことになりました。

それに伴い、研究班はRCTへの参加者を全国的に増やすため研究の内容を理解し、精度の高い検診を行える検診機関を通じて、協力してくれそうな市町村にアプローチをしています。

石川県では、石川県成人病予防センターと石川県予防医学協会が、いくつかの市町でRCTを行っています。今後も参加者を増やすための活動を行っているところです。

## 肺がんCT検診風景



検診車



説明会

# 石川県成人病予防センター 啓発活動のあれこれ ①

3月

20日(金)

- 検(健)診従事者研修会 センターにて 85人

4月

9日(木)

- 「子宮の日」新聞広告掲載 (北國新聞)

5月

10日(日)

- 石川県看護大学「猿鬼歩こう走ろう健康大会」 けんしんくん参加

17日(日)

- エーザイ市民公開講座 地場産業振興センター 15人  
「乳がんからいのちと乳房と大事な人を守るために今出来ること」  
石川県立中央病院診療部長(乳腺・内分泌外科) 吉野 裕司 先生  
「受けてみよう!乳がん検診 マンモグラフィ・エコーどう違う?」  
成人病予防センター女性がん検診課レントゲン技師 金井 麻由香 主任

6月

6日(土)

- 第64回百万石踊り流し参加 45人

8日(月)

- 胃がん検診・大腸がん検診受診勧奨用チラシ作成

30日(火)

- 防ごう!生活習慣病をテーマにがん検診の取り組み、  
やすらぎ2号子宮がん検診車内をMROが取材、カメラ撮影有り

7月

11日(土)

- MRO「ほっと石川」においてがん検診の取り組み等や  
子宮がん検診車内の紹介放送あり

26日(日)

- 加賀市健康予防講演会 加賀市民会館 46人  
「今こそ学ぶ 子宮頸がん～大切なあなたと家族の未来のために～」  
いこまともみレディースクリニック院長 生駒 友美 先生

27日(月)

- 志賀町保健推進員研修会 志賀町文化ホール 35人

30日(木)

- 志賀町保健推進員研修会 富来活性化センター 26人  
「子宮がん検診の基礎知識」・「乳がんの現状・マンモグラフィ検査とは」  
成人病予防センター女性がん検診課 東 節子 課長  
女性がん検診課レントゲン技師 高瀬 悦子 主任、橋爪 麻衣子 技師  
検査課 大澤 知子 課長補佐

8月

1日(土)

- 県内42ヶ所電柱広告看板設置(1年間)

30日(日)

- 南加賀保健福祉センター・小松市受診率向上キャンペーン協力  
アルプラザ小松店 500部資料配布 けんしんくんカブツキーと共演

31日(月)

- 石川テレビ 駅なか伝言板みんなのニュース出演  
「がん征圧月間スタートPR」



エーザイ市民公開講座



エーザイ市民公開講座



第64回百万石踊り流し参加



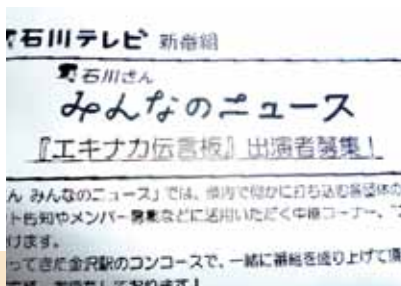
加賀市健康予防講演会



複十字シール運動をPR、竹中副知事を表敬訪問



小松市 受診率向上キャンペーン  
アルプラザ小松



石川テレビ 駅なか伝言板みんなのニュース出演  
「がん征圧月間スタートPR」



石川テレビ 駅なか伝言板みんなのニュース出演  
「がん征圧月間スタートPR」





救急の日イベント 人工呼吸実習



救急の日イベント 肺年齢測定



能登地区胃がん検診担当者研修会



ピンクリボンメッセージウオーク2015



かなざわピンクリボンメッセージウオーク2015



金沢市健康づくりフェア



NPOつなぐ市民公開講座 動脈硬化測定



## 9月

4日(金)

●健康増進普及月間新聞広告掲載(北國新聞・中日新聞) ピンクリボンプロジェクト事業

5日(土)

●白山・のいち医師会救急の日イベント協力 イオン御経塚店  
肺年齢測定 29人

11日(金)

●北國がん基金贈呈式 北國新聞社  
いしかわ健康づくり応援企業等連絡協議会啓発活動に対して助成受ける

13日(日)

●能登地区胃がん検診担当者研修会 のとふれあい文化センター 53人  
「これからの胃がん検診」成人病予防センター 素谷 宏 理事長  
「胃バリウム検査の実際と撮影時の留意点」  
消化器呼吸器検診課 水上 悟 課長

27日(日)

●かなざわピンクリボンメッセージウオーク しいのき迎賓館 250人  
自己触診法指導・マンモグラフィ無料体験検診実施 51人

29日(火)

●石川県健康寿命延伸プロジェクト事業協力  
協会けんぽ・MRO主催・いしかわ健康づくり応援企業等連絡協議会共催  
「健康経営」講演会 地場産業振興センター新館 177人

## 10月

3日(土)

●第36回金沢市健康づくりフェア参加 大手町プラザ東西館  
尿検査 162人、動脈硬化測定 97人、乳がん予防 92人

・4日(日)

●七尾市健康福祉まつり けんしんくん参加 配布資料 500部

3日(土)

●羽咋市福祉まつり 能登中部保健福祉センター・羽咋市  
がん検診受診率向上キャンペーン けんしんくん参加 配布資料 500部

4日(日)

●石川県50歳からの足腰強化推進事業「ロコモ予防普及事業」協力  
計4回健診受診者に啓蒙・実施

5日(月)

●NPOつなぐ市民公開講座後援「本当はこわい頭痛のお話」 金沢市文化ホール  
動脈硬化測定 27人

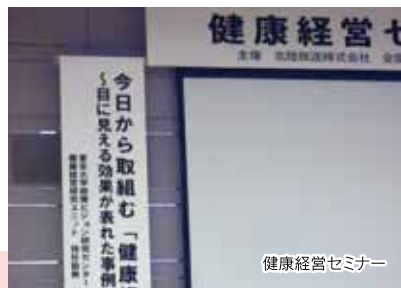
11日(日)

●白山市シルバー人材センター設立10周年記念事業 かがね荘 25人  
健康講座「がん検診の重要性～がん体験者からのアドバイス～」  
金沢赤十字病院副院長 西村 元一 先生  
「大腸がんを体験して」石川よろこびの会員 小坂 登志喜 先生

16日(金)

●住友生命保険さわやか介護セミナー寄付金贈呈・講演会 北國新聞赤羽ホール  
「家族の絆～がん闘病を乗り越えて～」 麻木 久仁子 さん 120人  
「受けてみよう!乳がん検診」  
成人病予防センター女性がん検診課 東 節子 課長

17日(土)



健康経営セミナー



シルバー人材センター設立10周年記念事業 健康講座



住友生命保険さわやか介護セミナー講演会

# 石川県成人病予防センター 啓発活動のあれこれ<sup>2</sup>



金沢内川校下ミニ健康フェア



金沢内川校下ミニ健康フェア



金沢此花校下ミニ健康フェア



白山市シルバー人材講演会での  
楽器演奏(オカリナ)



加賀地区胃がん検診担当者研修会 講演



健康づくり協議会(香林坊アトリオ)  
受診率向上キャンペーン街頭風景



消化器がん検診学会 石川県の現状発表

## 10月

18日(日)  
25日(日)  
28日(水)

続き

- 金沢内川校下ミニ健康フェア 内川公民館 動脈硬化測定 26人
- 金沢此花校下ミニ健康フェア 此花公民館 動脈硬化測定 33人
- 加賀地区胃がん検診担当者研修会 白山市市民交流ホール 14人  
「これからの胃がん検診」 成人病予防センター 素谷 宏 理事長  
「胃バリウム検査の実際と撮影時の留意点」  
消化器呼吸器検診課 水上 悟 課長
- いしかわ健康づくり応援企業等連絡協議会受診率向上キャンペーン  
金沢地区香林坊アトリオ前広場～大和バス停付近 資料配付 900部  
参加企業7社・県・センター延べ20人で配布 けんしんくん参加
- 白山市シルバー人材センター設立10周年記念事業 鶴来公民館 15人  
健康講座 「がん検診の重要性～がん体験者からのアドバイス～」  
金沢赤十字病院副院長 西村 元一 先生  
「大腸がんを体験して」 石川よろこびの会員 小坂 登志喜 先生

## 11月

1日(日)  
13日(金)  
・14日(土)  
・15日(日)  
21日(土)

- 北陸がんプロ市民公開講座参加協力 金沢大学病院宝ホール他  
(胃がん・大腸がん・乳がんチラシ・ステッカー200部)
- アフラック「がんを知る展」 1200人  
いしかわ健康づくり応援企業等連絡協議会共催 フォーラス6階  
ポケットティッシュ・ボールペン提供
- 第45回日本消化器がん検診学会東海北陸地方会 福井県  
シンポジウム「消化器がん検診をみつめるーわが県の強み・弱みー」  
(行政の立場) 石川県健康推進課生活習慣病対策グループ 清野 佑未

## 12月

23日(祝)

- マンモグラフィ読影講習会 金沢市保健所すこやかホール  
「乳がん検診をめぐる最新情報」  
福井県済生会病院乳腺科部長 笠原 善郎 先生  
「超音波検査について」  
金沢メディカルステーション ヴィーク 横山 浩一 先生



第45回日本消化器がん検診東海北陸地方会 シンポジウム

# 石川よろこびの会

石川よろこびの会 会長 松井 外貴彦

「置かれた場所でおめでとつございませす。

あけましておめでとつございませす。」

「置かれた場所でおめでとつございませす。」  
渡辺和子さんの本のタイトルです。この方は父上を目の前で殺された経験を持ち、それでも人々のために生きる「クリスチャン」です。

その本の表紙には「タンポポの花」が添えられてあります。

後日たまたまテレビで拝見し、すばらしい人格にさらに感動しました。その後、バラはバラで美しく、タンポポはタンポポで愛らしく、バラはタンポポにならない、タンポポはバラにはなれない、ありのままその場所で咲くようにと優しい声で諭しておられました。

なぜ表紙にタンポポが描かれているかを知り、私自身も人と比べず、置かれた現在の場所で、自分を精一杯生きたいと思わずにはいられません。年頭に当たり、こんなことを皆様にもお伝えしたいと思ひます。



2015年 石川よろこびの会 総会

お問い合わせ・入会申し込みは…

公益財団法人 石川県成人病予防センター内

## 石川よろこびの会事務局

〒920-8201 金沢市鞍月東2丁目6番地

TEL. 076-237-6262 (代表)・FAX. 076-238-9207

URL <http://www.kenshin-ishikawa.or.jp/>

E-mail [smile@kenshin-ishikawa.or.jp](mailto:smile@kenshin-ishikawa.or.jp)

## 結核予防の募金呼びかけ

複十字シール運動をPR  
竹中副知事を表敬訪問

結核などの予防活動に役立てる募金活動「全国一斉複十字シール運動」が8月1日から12月31日まで実施されました。運動開始日の休日明けの3日に県結核予防婦人会の藤多典子会長と、結核予防会石川県支部の中嶋廉幸専務理事をはじめ担当者で県庁を訪れ、竹中博康副知事に運動への理解と募金の協力をお願いしました。



2015年 複十字シール運動 表敬訪問

## 結核予防週間

街頭啓発活動を実施  
くめいてつ・エムザ前にて

9月24日から30日までの結核予防週間期間中の27日に、金沢くめいてつ・エムザ前にて、県結核予防婦人会の藤多会長、東事務局長とよろこびの会の松井会長、坂下副会長、結核予防会石川県支部の中嶋専務理事ら総勢7名で資料（結核やがんのリーフレット、ボールペンなど）を配布しました。多くの買い物客に、結核予防を訴えました。



2015年 街頭啓発活動

# これからもよろしく! センターのロゴマークです



## 公益財団法人 石川県成人病予防センター

日本対がん協会石川県支部・結核予防会石川県支部

**マークコンセプト** 石川県のイニシャル「i」と成人病予防センターのイニシャル「S」との間のシルエットをモチーフにデザイン。イメージは駆けつけ寄り添う天使や看護師の如く、熱心に検診する技術の如く、石川県と太陽の如く。

## 新入社員紹介

「よろしくお願ひいたします。」



業務課 書記 下川 武士

平成二十七年四月よりこちらでお世話になることになりました。

これまで店舗運営管理、統括業務等営業を行って参りましたが、健康福祉という分野に大変やりがいを感じる日々を送っております。

検診に来られる方の大半は健康な方です。未病の方にその「健康」を意識し続けていただくことは大変難しいことです。

忙しいから、面倒だから。そういった方もいらつしやると思います。

私たちの使命は、受診者様に毎年検診に来ていただくよう最善を尽くすこと。来年も来ていただけるように受診者様の心に寄り添い、傾聴する姿勢を第一に、健診に取り組んでおります。また来年少しでもそういう方を増やすことができるよう、

これからも邁進して参りますので、よろしくお願ひいたします。



診療放射線技師 岡田 江里子

平成二十七年四月からご縁があり、石川県成人病予防センターに放射線技師として勤務することとなりました岡田です。

私は以前、金沢市内の病院で20年程度働いておりました。内科、外科のみならず、整形外科や婦人科、循環器科の疾患もいろいろ検査してきました。

この度、こちらで検診業務に携わることとなり、早期発見、早期診断に微力ながらお役に立てるのではないかと思っております。

胃がんや乳がんの検査に対して何か疑問や質問(不安等)がございましたら、気軽に声をかけてください。わかる範囲でお応えできればと思います。今後ともよろしくお願ひいたします。



## ハローファイブ エコキヤップ運動

業務課書記 岩坂 昌和

今年度よりFM石川さんを通じて、ハローファイブエコキヤップ運動に参加しました。

ゴミとして捨てているペットボトル飲料のキヤップを回収して、その売却益を発展途上国の子どもたちへのポリオワクチン接種費用として贈る運動です。キヤップおよそ800個でポリオワクチン1人分になります。

9月17日2,160個、5.4kgを協力しました。今後もこの運動に参加し、定期的にエコキヤップ回収運動に協力したいと思います。当センターも回収場所企業の一つとしてキヤップを募集しますので、職場や家庭で集まったキヤップを是非、当センターへお持ちください。

センターの協力状況は、ハローファイブエコキヤップ運動よりご確認ください。

<http://hellofive.jp/eco/ecocap/> エコキヤップ回収データ検索欄より「成人病 etcで検索」

## 編集後記

昨年は世界に目を向ければロシア機の撃墜やフランスでは競技場等で同時テロがあり多くの尊い命が奪われるなど悲惨な出来事がありました。石川県は3月に北陸新幹線が開通し、11月には金沢マラソンが国内外より1万2千人あまりの参加のもと開催され、多くの観光客で賑わいを見せました。

我々、検診の世界を見ますと、長年行ってきた胃がん検診や乳がん検診が過渡期を迎え、対象年齢や方法、検査項目等変わりがつあります。また、著名人の相次ぐがん闘病の報道でがん検診への関心も非常に高まりました。一時的な現象に終わらないように検診会場に足を運んで下さるよう、ますます安全で安心して受診して頂けるように智慧を絞り、また、一層の精度管理に努めて参ります。今年もどうぞ宜しくお願いいたします。

(編集委員会)